

2025 年度（令和7年度）学校評価自己評価表

精華中学校区	校番 34	福山市立金江小学校
最終更新日		2025年（令和7年）4月1日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する 資質・能力	【主体的に学ぶ力】【思考力・判断力・表現力】【自己形成力】
・プロセス評価の評点が向上するように、PDCA サイクルの視点をもってマネジメントしてほしい。	・興味をもったことを探究するなど、主体的に行動する姿が増えている。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	・確かな学力を身につけ、自ら進路を切り拓く子ども
・学校と地域との連携協力をさらに深め広げていくことが大切である。	・自分の考えを持ち、他者に伝えるなど、自己表現力が育ってきている。	中学校区として 統一した取組等	・自己肯定感が高く、地域に愛着と誇りをもち、社会に貢献できる子ども
・少人数の良さを生かし、一人一人の子どもたちに成功体験を持てる機会を通して自己肯定感を育ててほしい。	・教科で身につけたい力が十分身につけていない児童生徒がいる。		・学力分析と授業研究を通した「主体的な学び」の授業づくりに取り組み、学力の向上を図る。 (授業研究部会)
	・人間関係の固定化やレジリエンスにややかけるところもある。		・「自分で選び・決める」活動に取り組み、思考力・判断力・表現力を育成する。(プロジェクト部会)
			・児童生徒の自己肯定感と自己有用感を向上させ、自己形成力を育成する。(自治活動部会)

III 自 校

ミッション	主体的に学ぶ力	思考力・判断力・表現力	自己形成力
地域に貢献する 自立した子どもの育成 ～「子ども主体の学び」を授業でも生活でも行事でも～	めざす子ども像		
学校教育目標	小1～小4	自分の考えを持ち、相手意識を持って、話したり書いたりして表現している。	思いやりの心を持ち、目標を達成するために、協力し合い、粘り強く努力している。
共に高まる たくましい子の育成	小5～中1	日常生活や地域社会をよりよくするために、学ぶことに対し自分で価値を見出し、様々な課題に意欲的に取り組むことができる。	日常生活や地域社会をよりよくするために、既習事項を活用して、自分の考えや意見を話す・書く等で表現している。
現 状	中2～中3	社会をよりよくするために、学ぶことに対し自分で価値を見出し、様々な課題に自発的・能動的に取り組むことができる。	誰に対しても思いやりの心を持ち、より高い目標を達成するために、相手の立場や考えを尊重しながら、粘り強く取り組み、やり抜いている。
＜児童生徒＞ 児童と教職員で目指す姿を具体化して共有し、児童の考えを生かした取組を行ってきたことで、「自分達で学校をよりよくしていこう」という意識が高まってきている。自分達の実態をもとに単元の知識の構造図と問いの構造図を作成し、児童が自ら学習課題を見出し追究したり解決したりする学習過程を見通した単元づくりや学習内容を既習事項や日常生活と結びつけて考える授業づくりを行うことで、児童が意欲的に学習に取り組んでいる。問題の意図を捉えて、学んだ力を使って解決する力には課題が残る。	テーマ	主体的に課題を追究し、共に高まる児童の育成 ～資料を活用し、思考力を高める授業を通して～社会科・生活科を中心に	
＜授業＞ 教材研究ノートを作成し、教科・単元のねらいや内容、系統性など「何を学ぶのか」を明確にした授業づくりを行っている。児童の実態をもとに単元の知識の構造図と問いの構造図を作成し、児童が自ら学習課題を見出し追究したり解決したりする学習過程を見通した単元づくりや学習内容を既習事項や日常生活と結びつけて考える授業づくりを行うことで、児童が意欲的に学習に取り組んでいる。問題の意図を捉えて、学んだ力を使って解決する力には課題が残る。	研究 内容等	①教材研究・・・教科・単元のねらいや内容、系統性を明確にした単元づくりを行う ②資料提示や効果的な体験活動の工夫・・・単元の狙いに沿った資料の活用をしたり、見学の根拠を明確にした体験活動を設定したりする。 ③児童の振り返りと授業改善・・・児童一人一人が、本時の学習を言語化し、それに基づいて授業改善を行う。	
	めざす授業の姿	社会的事象に興味をもち、自ら問いをもたせることができる授業。 資料を正しく読み取り、資料から課題を解決する場面を設定することができる授業。 キーワードや視点を提示し、自分の意見をまとめる機会を作る授業。	

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立金江小学校

年 目	中期経営 目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	力を入 れ評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達 成状況	力を入 れ評価	達成 評価	総合 評価
4	主体的な学 びの授業づ くりを進 め、学ぶ意 欲と学力の 向上を図 る。	★	継続	主体的、協働的 に学ぶことが できる授業づ くりを行い、学 力を向上させ る。	・ねらいや内容、系統 性を明確にした単 元づくりを行い、 主体的に学ぶ場、 自分の言葉で表現 する場を設定した 授業を行う。 ・セカンドスクール (放課後学習)を設定 する。	・学期末テスト(1・2年国 算2教科、3～6年国算 社理4教科)の「知識・ 技能」で平均80点以上 ・「友達の考えを聞いたり話 し合ったりして学びを深 めている」児童80%以 上 ・セカンドスクールを月に 2回以上実施								
			継続	学校図書館を 活用し、多様な 種類の本に触 れ、読書量を増 やし語彙力を 高める児童を 育成する。	・月2回の読書デー では、読書カード を書き、読んだ本 の感想等を書き溜 める。 ・読書感想文を学期に1 回以上書く。 ・図書委員会で、学期に 1回以上学校図書館を 活用する取組を行う。									
4	児童の自己 肯定感と自 己有用感を 向上させ、 自己形成力 を育成す る。		継続	生活習慣を確 立し自分から 進んで行動す る児童を育成 する。	・児童主体の係活動 や委員会活動・学 校行事を充実させ る。	・「活動を通して自分が成 長したと感じる」児童 85%以上 ・委員会の発表を学期に1 回以上								
			新規	相手を大切に する行動や言 葉を使うこと ができる児童 を育成する。	・あいさつや返事を することの意義を理 解し、進んで取り組 むことができるよう にする。 ・中学校区統一のあいさつ の指標をもとに、毎週の振 り返りで「自分からあいさ つができた」児童85%以 上									

1	地域とともにある学校づくりを推進する。		新規	保護者や地域と連携した教育活動を展開する。	・児童が、地域に出かけたり、地域の方を招いたりして学ぶ機会を作る。	・地域学習として全学年が地域に出かけ、地域のことを学ぶ。(年1回以上) ・感謝の会を企画して、地域の方とのふれあいの場を設定する。									
4	教職員の資質・能力の向上を図る。		継続	子供の学びを促す授業力を向上させる。	・観察授業週間を設定し、授業観察を通して互いに学び合う機会を作る。	・月に1回以上の授業観察を実施									
			新規	教職員が元気で生き生きと勤務できる環境を作る。	・「困っていないですか」等の声かけをし、「ありがとう」の感謝を声に出して伝える。	・「互いに助け合える職場である」と感じる教職員100%									

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。